

【エネルギー】 エネルギー一般

## イタリア最大の電力会社 ENEL の海外進出活動が活発に

イタリア最大の電力会社 ENEL は、1999 年 4 月に同国で制定された電力市場自由化法によって保有電力総出力の縮小を余儀なくされ（15,000MW 分の発電所を売却した）今日まで段階的に民営化された。とはいえ、ENEL は今もイタリア電力市場の支配的地位にある。

国内で失った発電所の海外での獲得を狙った ENEL の海外進出は、特に東欧において非常に活発になっている。2006 年 4 月末にはスロバキアの電力会社 Slovenske Elektrarne 社の購入<sup>1</sup>を完了させる最終手続きが実施され、6 月にはルーマニアの電力配給会社 Electrica Muntenia Sud 社<sup>2</sup>とブルガリアの電力生産会社 Maritza East III Power 社<sup>3</sup>を買収した。また 6 月上旬には、ブラジルの Rede グループより総出力 98MW の水力発電所を購入した<sup>4</sup>。

ENEL は 2006 年 5 月末に、スペインのエストレマツウラ地方に 8 億 5,000 万ユーロの投資をもって、総出力 650MW になる風力パーク、バイオマス、ソーラー熱発電所の建設を決定したと発表した。なお同社は、2003 年にスペイン企業 Union Fenosa 社とジョイントベンチャー会社 Enel Union Fenosa Renovables 社（EUFER）<sup>5</sup>を設立し、スペイン市場へ既に進出している。

ENEL はベルギー市場進出も図るためにベルギーの電力会社 ELECTRABEL 社を買収する目的で、ELECTRABEL 社をほぼ 100% 保有しているフランスの SUEZ 社の株を購入する意図があることを 2006 年 2 月 22 日に公表した。しかしその 3 日後の 2 月 25 日、フランス側は SUEZ 社とフランスガス公社（Gaz de France / GDF）の合併により、フランス電力公社 EDF と同等な規模の第 2 の電力会社を設立すると発表した。

合併の目的は ENEL による SUEZ 社購入の阻止だったため、これを機に ENEL SUEZ 問題は突如勃発した。3 月上旬には、イタリアのベルルスコーニ首相やトレモンティ国庫相たちがブリュッセルの公正取引委員やフランス政府と会合し、フランスの保護主義に抗議したが、交渉結果は芳しくなかった。本件については、2 月末から 3 月中旬まで、イタリアのマスメディアだけでなく国際メディアでも大きく取り上げられた。

フランスのヴィルパン首相は GDF と SUEZ の合併を強かに望んでいるが、フランスにはエネルギー公社、特に「EDF と GDF の国の保有率は 70% 以下であってはならない」という規定が存在するため、両者の合併は先ず仏国会が規定改訂を承認しなけ

れば実現しない。

経済問題、労働組合問題だけでなく、1年後に選挙を控えたフランス政府の政治的問題も絡み合っ、簡単には EDF と SUEZ 社の合併は実現できないのが実情のようである。6月13日にパリで行われたプロディ伊首相とシラク仏大統領の会合においても、ENEL SUEZ 問題は取り上げられた。イタリア側は、SUEZ 問題を友好的に解決させる努力を今後もしていく方針のようだ。

ENEL は海外進出だけでなく、イタリア国内における新エネ設備設置にも力を入れている。総出力 54MW という、ENEL 保有の風力発電所としては最大規模の発電所が、6月23日にサルデーニャ島北部サッサリ県セディーニ市で完成した。出力が各 1.5MW の風力発電機 36 基が、設置された 2,000 m<sup>2</sup> の風力パークエリアにおいて、年間 9,000 万 kW 時の電力を生産する。

この生産量は、33,000 世帯に必要な電力を十分に賄うことができる量であり、1年間に石油換算で 19,000 トンの化石燃料を節減して 64,000 トンの CO<sub>2</sub> 放出を抑える計算になる。完成までに 2 年の歳月がかけられた本設備の投資額は、総額 3,500 万ユーロにまで上った。なお、風力パーク周辺には“風のおとぎ話”と命名された常設芸術作品が設置され、パークの景観全体が保護されている。

竣工式において、フルヴィオ・コンティ ENEL 社長は次のように述べた。「ENEL は 2010 年までに新エネルギー源のために 23 億ユーロを投資する予定である。その内の 13 億ユーロは国内で投資される。ENEL の環境と両立する電力生産計画において風力、ミニ水力発電、ソーラー、バイオマスは重要な役割を担う。環境を汚染しない本新エネ源設備設置計画実現によって ENEL が生産する総電力量の 3 分の 1 が新エネでカバーされるようになり、ENEL は新エネ部門の世界的リーダー企業となる」ENEL が現在イタリアで保有している風力設備は 274MW 分だが、4 年後には 400MW 分まで上げる予定である。

以上

#### 参考資料

ENEL 公式声明、イルソーレ 24 オーレ紙

<sup>1</sup> 2004 年 12 月にスロバキア政府は、スロバキア電力公社 Slovenske Elektrarne (SE) の 66% を約 8 億 4,000 万ユーロで ENEL に売却することを正式に認可した。これにより、ENEL はスロバキアにおいて総出力 7,000MW になる原発、水力発電所、石炭発電所を保有することになった。なお、SE は中・東欧で第 2 番目の規模の電力生産会社であり、残りの株 34% はスロバキアの National Property Fund が保有している。

<sup>2</sup> ENEL は、2006 年 6 月 5 日にルーマニアの電力配給会社 Electrica Muntenia Sud EMS 社株の 67.5% を 8 億 2,000 万ユーロで落札した。EMS 社はブカレスト地域の 110 万人強の客に電力を供給している。なお、ENEL は 2005 年にルーマニア、ティミショアラ地方の Electrica Banat 社とコスタンツァ地方

の Electrica Dobrogea 社を既に見取しており、既に両社の顧客 140 万人に電力を供給している。今回の新たな EMS 買収により、ENEL はルーマニア国内で、合計 250 万人の顧客に電力を配給する計算になる。

- <sup>3</sup> 2006 年 6 月 16 日に、ENEL は米国の Entergy ( Entergy Power Bulgaria Ltd ) 社よりブルガリアの Maritza East III Power Holding の株 40% と、Maritza O&M Holding Netherlands 社の株 100% を購入した。その結果、ENEL は大型火力発電所 840MW を持つブルガリアの Maritza East III Power Company AD 社の株 73% を保有することになった。なお、ENEL は Entergy 社に 4,750 万ユーロを支払った。残りの株 27% はブルガリア企業 NEK が保有している。
- <sup>4</sup> 2006 年 6 月 9 日に、ENEL のラテンアメリカの新エネ会社 Enel Latin America は、ブラジルの Rede Empresas de Energia Electrica SA グループの Rede Power do Brasil SA 社と Toscantins Energia SA 社よりブラジル各地にある 22 基の小型水力発電所 ( 総出力 97.68MW ) を、約 1 億 5,500 万ユーロで購入する契約をサンパウロで結んだ。
- <sup>5</sup> Enel Union Fenosa Renovables 社(EUFER)は、伊企業 ENEL ( 80% ) と西企業 Union Fenosa ( 20% ) によって 2003 年に設立された。 2006 年 5 月 30 日に、Union Fenosa 社が EUFER の ENEL 株 30% を購入したため、現在の EUFER 社の株保有率は、両社それぞれ 50% となっている。なお、EUFER は、現在 900MW の新エネ源設備を保有していて、2010 年には 1,600MW に拡張する予定である。